

第2章 令和元年台風第19号災害の概要及び被害状況

1. 令和元年台風第19号の概要

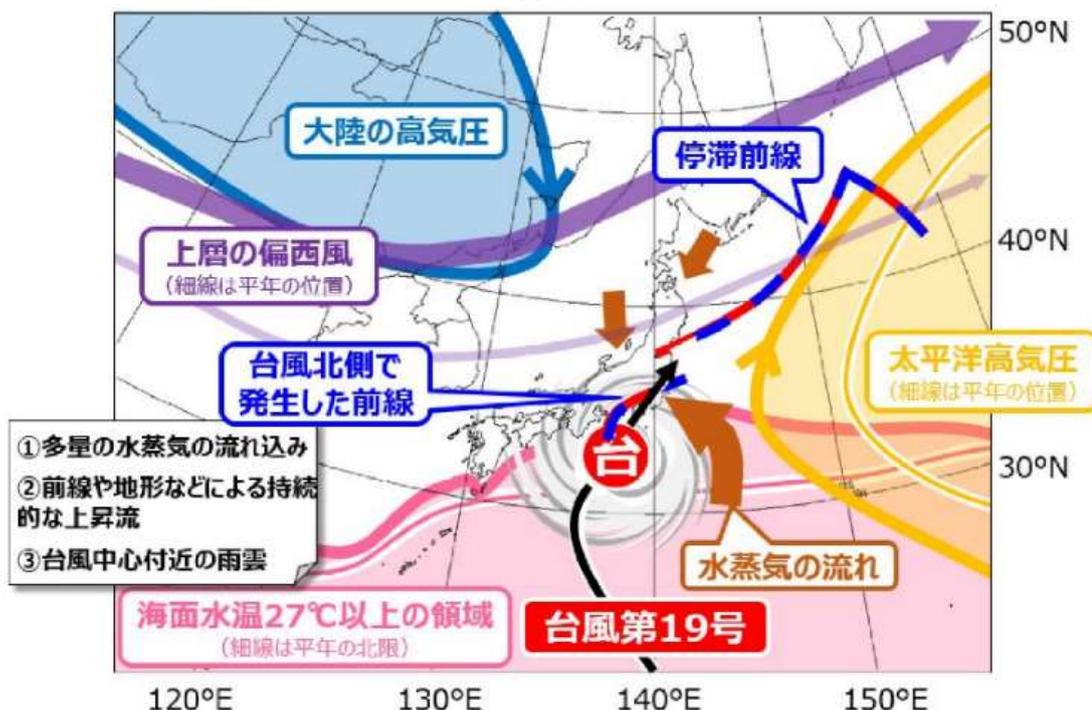
(1) 気象状況

令和元年台風第19号は、令和元年10月6日午前3時に南鳥島の南海上で発生後まもなく急速に発達して猛烈な台風となり、その後、大きく勢力を弱めることなく、上陸直前まで非常に強い勢力を維持しました。また、強い勢力で静岡県に上陸した後、関東甲信地方と東北地方を通過しました。

これに伴い、東日本と東北地方を中心に広い地域で記録的な大雨となり、1都12県で大雨特別警報の発表に至りました。多くの地点で12時間降水量等の観測史上1位の記録を更新し、令和元年10月12日に北日本と東日本のアメダス地点（1982年以降で比較可能な613地点）で観測された日降水量の総和は観測史上最大となっています。

東海地方から東北地方で記録的な大雨をもたらした気象要因について気象庁では、大型で非常に強い勢力をもった台風の接近による多量の水蒸気の流れ込み、台風北側の前線の形成・強化及び地形の効果などによる持続的な上昇流の形成、台風中心付近の発達した雨雲の直接的影響の3点が主要因であったと分析しています。

図1 台風第19号による大雨の気象要因イメージ



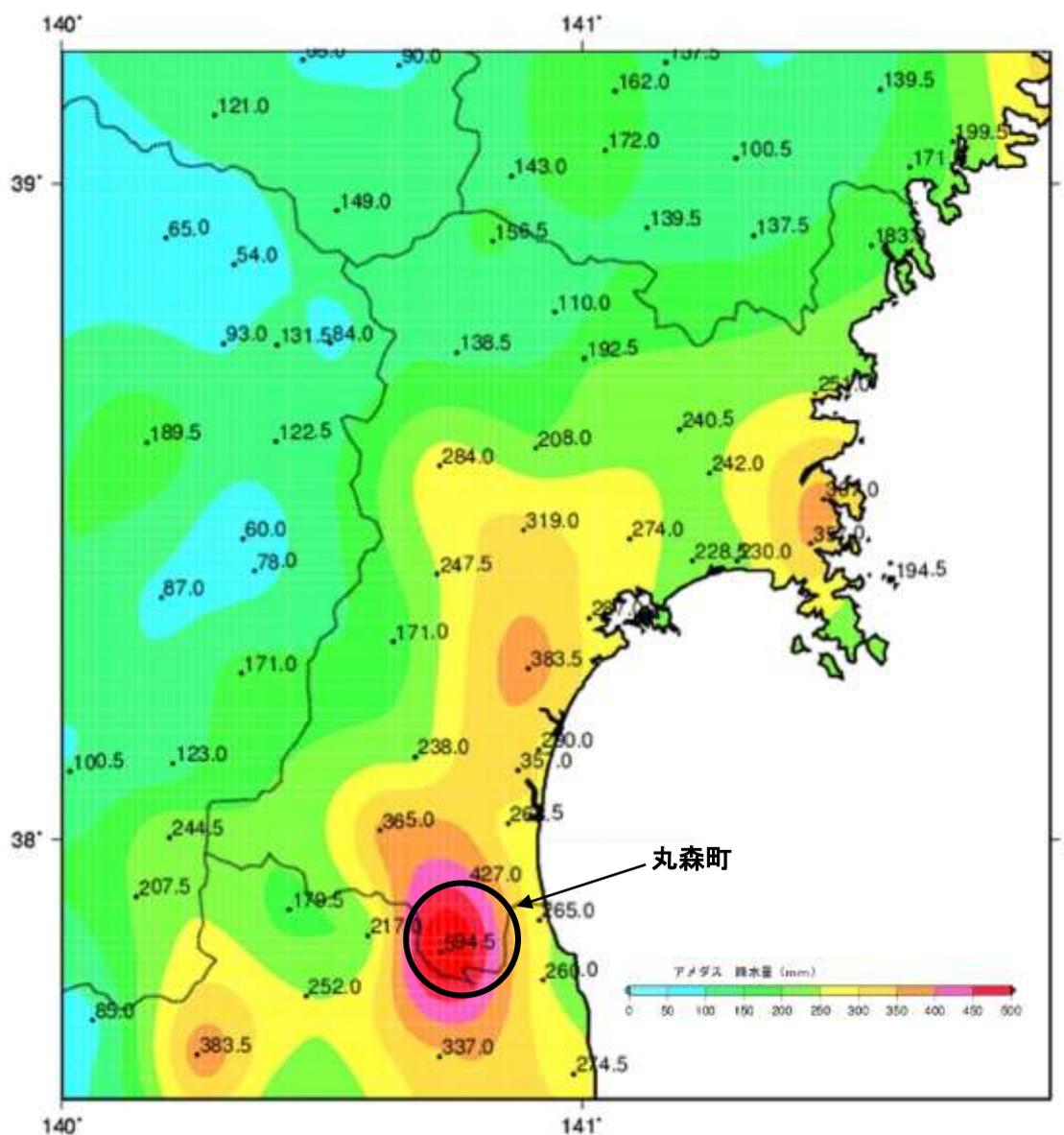
出典：「令和元年台風第19号に伴う大雨の要因について」

(気象庁 令和元年12月23日)

(2) 宮城県内の降水量

宮城県においては、令和元年10月11日から前線の影響で雨が降り出し、翌12日には台風の接近により昼過ぎから激しい雨となりました。その後台風の接近・通過に伴い、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しい雨となり、局地的に猛烈な雨となりました。10月11日午後3時から13日午前9時までの総雨量は、宮城県の広い範囲で200mm以上の大雨となり、筆甫594.5mm、丸森427.0mm、石巻市雄勝367.0mm、仙台383.5mmと10月1か月分の平年値の2～3倍の雨量となりました。

図2 宮城県内の期間降水量分布図（令和元年10月11日午後3時～10月13日午前9時）



出典：「宮城県災害気象資料」（令和元年10月17日 仙台管区气象台）
を基に丸森町作成

表 1 各地点の期間降水量（期間：令和元年 10 月 11 日午後 3 時～10 月 13 日午前 9 時）

観測地点	市町村	降水量(mm)	観測地点	市町村	降水量(mm)
筆甫	丸森町	594.5	女川	女川町	357.0
丸森	丸森町	427.0	岩沼	岩沼市	357.0
仙台	仙台市	383.5	大衡	大衡村	319.0
雄勝	石巻市	367.0	名取	名取市	290.0
白石	白石市	365.0	塩釜	塩竈市	287.0

出典：「宮城県災害気象資料」（令和元年 10 月 17 日 仙台管区气象台）
から上位 10 地点を抜粋

（3）丸森町内の降水量及び河川の水位

町内には 6 箇所の雨量観測地点があり、そのうち大内観測所で総雨量 612mm の最大雨量を観測しました。

また、河川の最大水位は、阿武隈川で降り始めから 8.56m 上昇し 23.44m、雉子尾川で降り始めから 6.74m 上昇し 7.11m を記録したほか、県管理の内川、新川及び五福谷川において計 18 箇所が決壊するなどし、町内に深刻な浸水被害が発生しました。

表 2 町内各観測所の雨量および河川の水位（令和元年 10 月 12 日～10 月 13 日）

観測所	総雨量 (mm)	最大時間雨量 (mm)	最大時間雨量記録日時
丸森	427	60	10 月 12 日午後 11 時
内川	314	54	10 月 12 日午後 10 時 (以降破損により欠測)
笠松	560	78	10 月 12 日午後 10 時
筆甫	594	74	10 月 12 日午後 8 時
大内	612	77	10 月 12 日午後 10 時
大張	481	55	10 月 12 日午後 10 時

河川名	最高水位 (m)	降り始めからの上昇 (m)	最高水位記録日時
阿武隈川	23.44	8.56	10 月 13 日午前 5 時
内川	—	8.71	破損により欠測(10 月 12 日午後 9 時に 9.84m を記録)
雉子尾川	7.11	6.74	10 月 12 日午後 11 時 20 分

出典：丸森町資料

2. 主な被害の状況

(1) 人的被害

今回の台風災害により、本町では10名の尊い命が犠牲となったほか、1名が依然行方不明となっています。地区別に見ると丸森地区で死者8名、行方不明者1名と最も被害が多くなっています。

また、救助件数は50件、97名となっています。

(2) 浸水による住家被害

町内の浸水による住家被害は合計1,073件に上り、内訳は床上浸水が866件、床下浸水が207件となっています。床上浸水の内訳としては、全壊が57件、大規模半壊が234件、半壊が568件、一部損壊が7件となっており、全壊及び大規模半壊、半壊が、床上浸水の合計件数のほとんどを占めています。

床上・床下浸水被害件数を地区別で見ると、丸森地区547件(50.9%)で、全体の半数以上を占めています。

表3 地区別の床上・床下浸水被害件数

地区	被災 (件)					計	合計
	浸水	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊		
丸森	床上	44	166	263	6	479	547
	床下	1	0	9	58	68	
金山	床上	3	36	198	0	237	269
	床下	0	0	2	30	32	
筆甫	床上	2	3	24	0	29	55
	床下	0	0	0	26	26	
大内	床上	3	1	39	1	44	74
	床下	1	0	0	29	30	
小斎	床上	3	25	14	0	42	46
	床下	0	0	0	4	4	
舘矢間	床上	1	1	8	0	10	39
	床下	0	0	0	29	29	
大張	床上	1	1	13	0	15	23
	床下	0	0	0	8	8	
耕野	床上	0	1	9	0	10	20
	床下	1	0	0	9	10	
合計	床上	57	234	568	7	866	1,073
	床下	3	0	11	193	207	

出典：丸森町資料（令和2年1月31日現在）

(3) 施設及び産業関連の被害状況

今回の台風災害により、本町関連の道路や河川等の公共土木施設及び農林業施設等において、合計 2,904 箇所です約 325 億 8 千万円の被害となったほか、行政施設や学校教育施設等の公共施設においても約 23 億 6 千万円の被害が生じました。

また、農作物や農業用機械をはじめ、商工業事業者の施設・設備などの本町関連産業の被害は約 72 億 5 千万円に上るなど、総額で約 421 億 9 千万円の被害となりました。

表 4 施設及び産業関連の被害状況

施設名等		箇所数	金額 (千円)
公共土木施設		683	12,553,000
土木施設	道路	341	6,428,300
	河川	338	4,764,700
	橋梁	3	260,000
都市施設	公園	0	0
	雨水ポンプ場	1	1,100,000
農林業施設		2,216	19,621,620
農業用施設	農地	786	8,830,100
	水路	676	3,965,074
	農道	470	2,779,046
	頭首工等	108	1,555,100
林業用施設	林道	155	2,204,000
揚排水機場		21	288,300
公共下水施設		3	51,000
農業集落排水施設		2	350,000
小計		2,904	32,575,620
行政施設、学校教育施設、公営住宅ほか			2,365,914
農作物 (364ha)、農業用機械等			1,145,440
商工業関係			6,100,570
合計			42,187,544

出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）

3. 応急・復旧、被災者支援の取組状況

(1) 避難情報発令の経過

台風の接近にともない、令和元年10月12日午後2時に警戒レベル3避難準備情報を発令し、その後、同日午後3時20分に警戒レベル4避難勧告、同日午後7時50分にレベル5災害発生情報(避難指示)に引き上げ、令和元年10月20日午前9時40分に避難指示を解除しました。

表5 避難情報発令状況(令和元年10月12日～10月20日)

月日	時間	避難情報発令
10月12日	午後2時00分	警戒レベル3 避難準備情報 発令
	午後3時20分	警戒レベル4 避難勧告 発令
	午後7時50分	警戒レベル5 災害発生情報(避難指示) 発令
10月20日	午前9時40分	避難指示 解除

出典：丸森町資料

表6【参考】警戒レベルを用いた避難勧告等の発令

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をする。	災害発生情報(※) (※) 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令
警戒レベル4	速やかに避難先へ避難。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所等へ避難。	避難勧告 避難指示(緊急)(※) (※) 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令
警戒レベル3	避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は避難する。その他の人は避難の準備を整える。	避難準備・高齢者等避難開始
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	洪水注意報 大雨注意報等
警戒レベル1	防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める。	早期注意情報

※警戒レベル1及び2は気象庁が発表、警戒レベル3～5は市町村が発令

出典：「警戒レベルに関するチラシ」(内閣府(防災担当))を基に丸森町作成

(2) 避難者数

令和元年 10 月 12 日午後 7 時 50 分にレベル 5 災害発生情報(避難指示)が発令された後、午後 10 時 20 分時点で町内 16 箇所に 438 名が避難しました。

なお、令和元年 10 月 25 日午後 11 時 30 分時点が最大で、15 箇所に 545 名が避難しました。

(3) 応急仮設住宅

応急仮設住宅については、令和元年 12 月末に 6 箇所、208 戸の建設型応急住宅(プレハブ仮設住宅)が建設され、入居を希望した 170 世帯すべてが入居しています。

また、賃貸型応急住宅(みなし仮設住宅)には、97 世帯が入居しています。

図 3 建設型応急住宅(プレハブ仮設住宅)の建設地



出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）

(4) り災証明書等の発行状況

り災証明書については、受付 1,407 件に対し、発行は 1,228 件(進捗率 87.3%)となっています。

また、被災証明書については、受付 1,865 件に対し、発行が 1,865 件(進捗率 100.0%)となっています。

表 7 り災証明書及び被災証明書の受付・発行件数

種類	受付 (件)	発行 (件)	進捗率
り災証明書	1,407	1,228	87.3%
被災証明書	1,865	1,865	100.0%

出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）

(5) 災害義援金及び寄附金の状況

災害義援金について、令和元年台風第 19 号災害義援金として宮城県を通じて本町に計 222,860 千円が配分されたほか、町独自で受け付けている丸森町災害義援金が 63,363 千円となっています。

また、寄附金については、ふるさと納税を含め合計で 277,515 千円となっています。

表 8 令和元年台風第 19 号災害義援金及び丸森町災害義援金の状況

	金額
第一次配分額	60,780 千円
第二次配分額（予定）	162,080 千円
丸森町災害義援金（町独自）	63,363 千円
合計	286,223 千円

※第二次分は、令和 2 年 2 月 7 日に配分予定。

出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）

表 9 寄附金の状況

	金額
寄附金	95,639 千円
ふるさと納税	181,876 千円
合計	277,515 千円

出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）

(6) ボランティアの受入状況

令和元年 10 月 19 日に、丸森町社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを開設し、多くの支援団体の協力のもと、受け入れたボランティアの人数は延べ 16,237 人に上り、被災家財、土砂・泥等の搬出や家屋等の清掃など被災した町民のニーズに応じた各種支援をいただいています。

表 10 ボランティアの受入状況

延べ人数	活動内容
16,237 人	被災家財、土砂・泥等の搬出、家屋等の清掃、被災廃棄物の運搬、災害ボランティアセンターの運営支援 など

出典：丸森町資料（令和 2 年 1 月 31 日現在）